

## 令和7年度第5回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会 議事録

日時・場所 : 令和8年3月9日(月) 13時30分～15時10分 教授会室  
出席者(対面) : 井手理事長、福永副理事長、森下理事、松岡理事、中嶋理事、北村理事  
出席者(オンライン) : 石井委員、伊藤委員、小倉委員、小玉委員、塚本委員  
欠席者 : 山口委員  
事務局 : 中井事務局次長、前田総務課長、古澤財務課長、寺村経営企画課長、堀口学生・就職支援課長、川崎教務課長、小椋地域連携・研究支援課長、越後高専開設準備局長、堀江高専開設準備局次長(兼)総務・施設整備課長、南高専開設準備局学務課長、経営企画課 加藤主幹、濱野主幹、林主幹

### 【審議事項】

#### (1) 令和7年度補正予算(案)および繰越予算(案)について

古澤財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### (2) 令和8年度事業計画(案)について

#### (3) 令和8年度予算(案)について

議題(2)および(3)は関連がある内容のため、一括して審議することとされた。

令和8年度事業計画(案)について寺村経営企画課長から、令和8年度予算(案)について古澤財務課長より、それぞれ資料に基づき説明があり、審議の結果、議題(2)については記載内容を一部見直すこととし、議題(3)については原案のとおり承認された。

### [主な意見・質疑等]

・高専は企業との共創をかなり意識されたような組織体制となっていて良いと思うが、大学側の事業計画では企業との連携に関する記述が少し弱く見える。実態として様々なことをやっておられるので、そのあたり事業計画や予算の中で見えるようにした方がよいのではないか。

→ 大学としては企業連携を積極的に進めており、教育重視になる高専以上に力を入れていく必要があると考えている。事業計画等でその点を上手く表現できていないところ・不十分なところがあれば加筆するような形で対応させていただく。

・令和8年度予算(案)では施設・設備整備予算が対前年でかなり減っており、中でも長寿命化計画の予算は前年の3分の1程度に減っている。これは長寿命化工事が進み、終了する目途がついたというように考えてよいか。

- 令和7年度からの繰越工事・繰越予算があり、それを合わせると対前年同額以上となる。長寿命化は数年間の計画であり、令和9年度以降も実施していく。
- 予算が減っているわけではないと、ご理解いただきたい。

#### (4) 学内規程等の改正について

前田総務課長より資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

### 【報告事項】

#### (1) 理事長と学長の分離に伴う公立大学法人 滋賀県立大学の組織体制について

前田総務課長より、資料に基づき説明があった。

#### (2) 令和7年度第3四半期までの予算執行状況について

古澤財務課長より、資料に基づき説明があった。

##### [主な意見・質疑等]

- ・ 人件費が6千3百万円程増加しているが、具体的な理由は何か。
  - 契約職員についても給与のベースアップをしており、ベースアップ幅が大きかったことが影響している。

#### (3) 滋賀県立高等専門学校 設置認可申請書(案)の概要について

高専開設準備局 南課長より、資料に基づき説明があった。

##### [主な意見・質疑等]

- ・ 基幹教員について、大学の場合は2分の1以上が教授でなければならない等の制約があるが、高専にはそのようなものはないのか。
  - 高専設置基準では、専門科目を担当する教授と准教授の合計が全専任教員の2分の1以上でなければならないという制限があるので、それに則するように採用を進めている。大学とは少し基準が異なる。
- ・ 教育課程の説明で、「専門科目を学ぶ上で必要な基盤となる理数系科目は低学年に重点的に配置」と記載されているが、専門科目においても理数系科目に該当するものがあり、それらは高学年でも実施するはずなので、ここでは「基礎」といった文言を入れるなどわかりやすくしておく必要があるのではないか。
  - ここは「一般科目」に関する項目のため、「一般科目のうち理数系科目については、低学年に重点的に配置する」という主旨になる。専門科目のうち基礎的な科目も一般科目と並行して学んでいくことになるが、一般科目と専門科目を分けて記載しているということで、ご理解いただきたい。

- ・低学年に重点的に配置する一般科目は理数系科目だけでなく、国語や外国語も同様ではないのか。
  - 一般科目のうち国語や英語といった人文社会系の科目については、1年生から5年生までバランスよく配置することとしている。それに対して理数系の科目については、専門科目で必要となることから、できる限り低学年に配置するように考えている。
  
- ・教員予定者の年齢構成を見るとご年配の方が多いよう見える。そのことについて文部科学省から何か言われているか。
  - 年齢層のバランスを考えてはいるが、公募の結果どうしても高めになっている。年配の方が多いということは認識しており、過去の大学認可に際し年齢層についてコメントが付された例もあると聞いている。  
この点に関しては、文部科学省に意見をもらうことは難しいため、コンサルにも意見を聞きながら進めてまいりたい。
  
- ・教員の定年について何か考えているか。
  - 認可申請後5年間のアフターチェック期間中は、教員体制を維持する必要がある。このため、必要な教員には定年延長を実施する予定。
  - 通常は65歳定年だが、開校時の特例として実施する。
  
- ・県外からも入学されることが想定されるが、学生寮の定員が少ないような印象を受ける。他校と比較してどうか。
  - 一般的な国立高専に比べると小規模。寮が小規模な奈良高専でも100人規模である。  
ただし、本校は「通える高専」ということを標榜しており、どうしても通えない方に寮を利用していただくということを基本に考えている。

#### (4) 滋賀県立高等専門学校の開設準備の進捗状況について

高専開設準備局 越後局長より、資料に基づき説明があった。

#### 【資料配布】

- (1) 令和7年度卒業・修了予定者の進路内定状況等について
- (2) 令和8年度学校推薦型選抜等特別選抜試験の合格状況および一般選抜試験志願状況ならびに一般選抜（前期日程）の受験状況について

【その他】

(1) 公立大学法人滋賀県立大学職員給与規程等の改正について

前田総務課長より、資料に基づき説明があり、後日書面審議を行うこととされた。

以上